

万博期間中の 上海旅行記

PN: あっきー

出発当日の出発ロビー



2010年10月1日、早朝の成田空港出発ロビー。

いよいよここでチェックインして、私としては21世紀初となる海外へと出発する。

旅行のスケジュールは、1日目は、上海に移動し、散策、2日目に万博に行き、3日目、つまり最終日には、上海で営業中のリニアモーターカーに乗ることである。

ちなみに、前回私がここでチェックインをしたのが、小学校1年生の秋に、父の仕事の都合でアメリカに引っ越すときであった。5年間アメリカで過ごしたのちに帰国し、海外はそれきりだったので、約17年ぶりの日本（成田）からの出国となった。

飛行機



行きの飛行機の機内の様子。今は就航していないJALのジャンボジェットの2階席だった。私が乗った数か月後にJALからジャンボ機が引退した。引退前に乗れて良かった・・・。

ちなみに小学生の時に、私がアメリカに引っ越す際に乗ったのもJALのジャンボ機だった。その時は1階だったので、2階に乗るのに憧れていた。

機内食



飛行機で出た機内食。前回、JALの国際線に乗った時に食べた機内食はお子様メニューだった（小学校低学年だったため）が、今回は大人用のメニューである。

所要時間3時間弱と短く、飛行中に食事の時間に差し掛かることもないため、機内食が出るとは思わなかった。予想外だったのでラッキー。

茶屋



上海に到着！到着後、市内の茶屋へ。縁起のいいとされる金属製の蛙の置物も売っていた。店員のお茶のプレゼンテーションのすごさには驚いた。

お茶



茶屋で実際に飲んだお茶。鉄観音のお茶を購入。



近年、急速に開発が進んでいる浦東新区の街並み。私の旅行地図は、今までは九州が一番西であり、一番西の都市は長崎だったが、九州よりも西にこのような大都会があることを改めて実感した瞬間でもあった。

果物屋



中国ではまだ健在の路上の果物屋さん。学校に通っていたころ、社会の教科書でしか見たことのない海外の光景を、実際に自分の目で見ることはできたことには感激した。

万博のキャラクター



私が泊ったホテルの近隣にあるショッピングセンターにあった万博のキャラクターの像。

中国のトイレ



上の写真は、路上にある公衆便所、下は、前ページのショッピングセンターのトイレ。日本の和式のトイレと同じしゃがむ方式だが、ドアの方を向いて行なう。上の写真のような金隠しのあるトイレでも金隠しが日本とは逆に、入口の方にある。下の写真は、金隠しがないトイレで、日本以外の多くの国では金隠しのないしゃがむトイレが主流である。もちろん、洋式もある。また、トイレットペーパーは、ごみ箱が備え付けられている場合は、直接便器に流さず、備え付けのごみ箱に捨てる。

中国には、ドアのないトイレや便器がなく溝だけのトイレが多くあると聞いているが、これらは今回の旅行では見る事がなかった。

正直、トイレにはカルチャーショックを受けた。

地下鉄の駅



上海の地下鉄の駅。上海は、現在、地下鉄建設ラッシュであり、私が上海に行った当時、日本で最も新しい地下鉄は、2008年6月に開業した東京メトロ副都心線だったが、その副都心線よりも新しい地下鉄路線、区間が多く存在することには驚いた。

上海の地下鉄 1



地下鉄の駅の改札前の様子。万博期間中で警戒中につき、改札に入る前に手荷物検査が行なわれる。

上海の地下鉄 2



地下鉄の車両（4号線）と車内（2号線）と券売機。券売機は、紙幣は扱わずコインしか受け取らないものもある（写真）。

初めて海外の電車で自分ひとりで乗ったことにも感動した。旅行を趣味とするようになったのは、中学生の頃だが、いつか一人で海外の電車に乗ってみたいと思っていたことを思い出した。そして、それが現実になったことには驚いた。

上海の地下鉄3



駅のホーム（左上）、始発終電案内（右上）、駅名表（下）

10号線は開業したばかりで試験的な営業だったため、終電が早く、20時だった。現在ではもっと遅くなっている。

上海の高層ビル



地震がほとんどないせいか、高層ビルが林立する。世界一高い展望台も上海に存在するが、2012年に東京スカイツリーができるとう世界一の座を譲ることになる。

上海の中華料理店

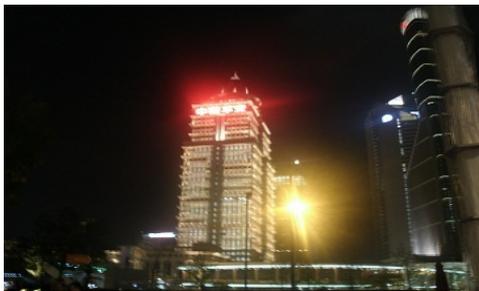


中国の一般的な高級中華料理店。箸が縦に備えられている。中国では、箸は縦に備えることは、高校時代に知った。高校の同じクラスに永住権を持った中国人がいて、家庭科の調理実習の時に、箸を縦に備えていたところを先生が見つけ、全員に、「日本では、箸は横に備えるが、中国では縦に備える」ということを教えてくれた。

料理は中央の円形の板に運ばれる。その中央の円形の板を回してバイキングのように自分の好きな料理を取る。

中国では、団体に食事をする際は、割り勘が主体である。なので、このような円形のスタイルになったのだと思われる。実際に、一つのメニューを一人前食べるのではなく、複数のメニューを少しずつ食べたい時には、このスタイルはもってこいであるだろう。

上海の夜景



上海では、高層ビルが多いが、夜景もそれなりに美しかった。やはり今までの私の旅行地図で最西端であった九州よりも西に大都会が存在することを実感させられた。世界規模の視野はやはり新たな発見が豊富であると思った。

朝食バイキング、ホテルの部屋



上海では、コートヤード・バイ・マリオット上海浦東というホテルに泊まった。以前、ニューヨークでもコートヤード・バイ・マリオットに泊ったことがある。外資系のホテルのため、また、日本人観光客が多いためか朝食のバイキングでは、日本食コーナーもあり、味噌汁もあ



った。

ホテルの部屋。

万博1



いよいよこの旅での本題の万博の写真である。休日のためか、会場には人が多く、パビリオンによっては、5時間待ち以上のところもあった。日本館は6時間待ちだった。私が中に入れたのは北朝鮮館のみだった。

写真は、それぞれ、アメリカ館（左上）、アイスランド館（上中央）、入口付近（右上）、中国館（左下）、スリランカ館（下中央）、カザフスタン館（右下）。

今回の万博のテーマは、快適な都市生活に関することであった。北朝鮮館でも、都市空間の写真が壁面にあった。日本館では、温水洗浄便座を展示していたという。

感想としては、多くの国が個性あふれる展示をしており、テーマにそって、それぞれの強みを見せ合い、万博を盛り上げているという実感がした。まさに、「助け合い」の精神が見えてきた。

万博2



万博の会場内交通。左の写真が乗車券で、右の写真が車両。運賃は10元だった。日本円に換算すると100円台である。これに乗って、前のページにも写真を掲載したが、アメリカ館の前へ行った。

上海図書館と上海体育館



万博を出た後、夕方には上海図書館と上海体育館を訪れた。左の写真が上海図書館で、右の写真が上海体育館である。図書館は、ゆっくりと中まで見物できたが、体育館は、電車の時間の都合で、前までしか行けなかった。

図書館では、勉強をしている学生が多数いた。私も、中国語で書かれた本を手にとってみたが、やはり、異国の感じがした。

リニアモーターカー



最終日、早朝にホテルを出発し、リニアモーターカーである上海トランスラピッドに乗った。上の写真が、車両、左下の写真が乗車券（ICカード式）、右下の写真が線路である。リニアモーターカーに乗ることは、私の幼いころからの夢でもあった。日本では、まだ、浮きながら高速で走行するリニアモーターカーは開通しておらず、今回の旅でこそ、日本での開通前にこれを叶えるチャンスに恵まれたのである。ただし、早朝に乗ったので、最高速度である430km/hは出さず、抑えめの300km/hで走行した。正午前後と夕方以降も速度を抑えて走行する。

リニア乗車



上の写真は、リニアモーターカーからの車窓、左下の写真は、普通車の車内、右下の写真は、特別席である。リニアは現在、市街地側と浦東空港と2駅しかなく、料金は、普通車で50元、特別車で100元である。市街地と空港の間の約30kmを10分前後で結んでいる。

乗った感想としては、なかなか揺れず、走行音もあまりしなかったので、浮いているという実感がわいた。空港に向かって乗る場合、飛行機で地上を離れる前に、このリニアモーターカーで少しだけ地上を離れるということが、まるで地上を離れるための予行練習のような感じがするだろうと心で思った。

上海科技館



いよいよ最後の目的地、上海科技館である。世紀公園と隣接しており、景色も美しい。まさに、「都会のオアシス」といった感じである。最後の締めくくりとして最高であった。

帰りの飛行機



いよいよ帰りの飛行機に乗った。左の写真が、座席前のモニターで見る位置を示す地図である。行きの飛行機でも、この地図を見ていたが、行きときは、未知の世界へ近づき、到着するという感じだったが、今回は、元の場所へと離れていくという感じがした。右の写真は、上空で雲の上から取った写真である。

今回は、遂に終わってしまったが、またいつかこの地を訪れたいと思った。そして、もう一度訪れるとしたら、今回訪れたところをもう一度「復習」として行くことはもちろん、自分にとって新しい、今回は行っていない場所を訪れたいと思う。そして、自分の地図に新たなマークをつけたいと思う。私の旅行地図をますます広げていきたいとも思う。

終